

◆はじめに

私達は、本年度次のテーマに沿って研究を進めて参りました。

少しばかりですが、皆様にもお伝え出来ればと思い掲載させて頂きます。

平成30年度 安曇野市保育協会 研究発表会

アルプス認定こども園

2019年1月18日（金）

◆研究テーマ

自然保育を通して季節の変化を感じ、
共に育ち合う子どもを目指して

～五感をゆさぶる、心を動かす体験を通して環境構成や保育士のかかわりを考える～

◆研究の目的

園の概要について

平成28年4月に新築
安曇野インター東に位置した小規模園

利用者:昔から高家地区に居住されている方

利用者:仕事の都合で一時的に利用し、
転園される方



◆研究の目的

ライフスタイルの変化



子どもが自然と触れ合う機会の減少



気付かず見過ごしてしまいがち



ライフスタイルの変化に伴い、子ども達は間接体験が多くなり、自然と触れ合う機会が減少している。

◆研究の目的



- ・ 外遊びをしようとしていない子
- ・ 野菜が嫌いな子
- ・ 汚れることを嫌がり遊ばない子や遊び込めない子

- ・ 環境を整えていこう
- ・ 季節を感じるあそびや活動に取り組んでいこう
- ・ 友だちと関わり、遊ぶ体験を積み重ねていこう

◆研究の目的

五感を揺さぶる、心を動かす体験の積み重ね

- 
- ・ 視る
 - ・ 聴く
 - ・ 嗅ぐ
 - ・ 触れる
 - ・ 味わう

- ・ 意欲的
- ・ 主体的
にあそべる
こども

上記の様な子どもを育てたいと願い、本テーマを設定しました。

◆研究の方法として

1. クラスの実態を把握し、学級経営案を作り、園全体で共有する。
2. 平成29年度自然保育年間計画を参考に、本年度の遊びを各学年構成・立案する。
3. 定期的な事例検討会や園テーマに沿った園内研修を実施し、保育の振り返りをする。
4. 成果や課題について検証し、次の保育に繋げる。

◆私達は次の4つの視点で取り組んでいくことにしました。

1. クラス保育による発見や遊びから
2. 散歩や園外保育から（地域への広がり）
3. 飼育・栽培活動から
4. 家庭との連携から

◆研究内容

1. クラス保育による発見や遊びから

<事例 1 10/2>

『トンボボ “ボボボボ” ♪』
(1歳児 ひよこ組)



未満児クラスでも、自然に触れる機会を多く持つため、頻繁にお散歩へ出掛けている。

M子：間近で見るトンボの翅の様子やクルクル動く目の動きを不思議そうにみる。

保育士：子どもが満足するまで見る時間を作る。「体が赤いね、赤とんぼって言うんだよ。」声かけをする。



トンボ、いるっ！

トンボ トンボ トンボ



▶間近で見るトンボは生まれて初めてだったかもしれない。満足するまで見るようにする。

▶実際にトンボに触れることを通して、小動物への好奇心が一層高まった。

M子：トンボを指さし保育士に教える。

保育士：M子を抱っこして一緒にトンボを見る。



せんせー、おいでー。



やだー！！

保育士：「トンボを捕まえたよ」と翅を持ってM子の前で見せる。

M子：トンボの腹を掴み驚いた顔をして、「やだー」と逃がしてしまう。

次の日もお散歩に出掛ける（10/3）



お散歩たのしいなあ～。

トンボ、いたっ！★

M子はトンボを見つける。





トンボボ
ボボボボ♪

とんぼのめがねは
水色めがね♪～

M子は『とんぼのめがね』の歌のリズムで歌い出す。保育士も一緒に歌う。

- ▶言葉が出始めたばかりだが、その時の状況ととんぼのめがねの曲が一致し、歌を口ずさむM子。保育士は一緒に楽しさを共有した。
- ▶間近で見るトンボは生まれて初めてだったかもしれない。満足するまで見るようにする。
- ▶実際にトンボに触れることを通して、小動物への好奇心が一層高まった。

別の日の散歩の日。田んぼの土手でトノサマガエルを見つけたM子



カエル、
カエル！！

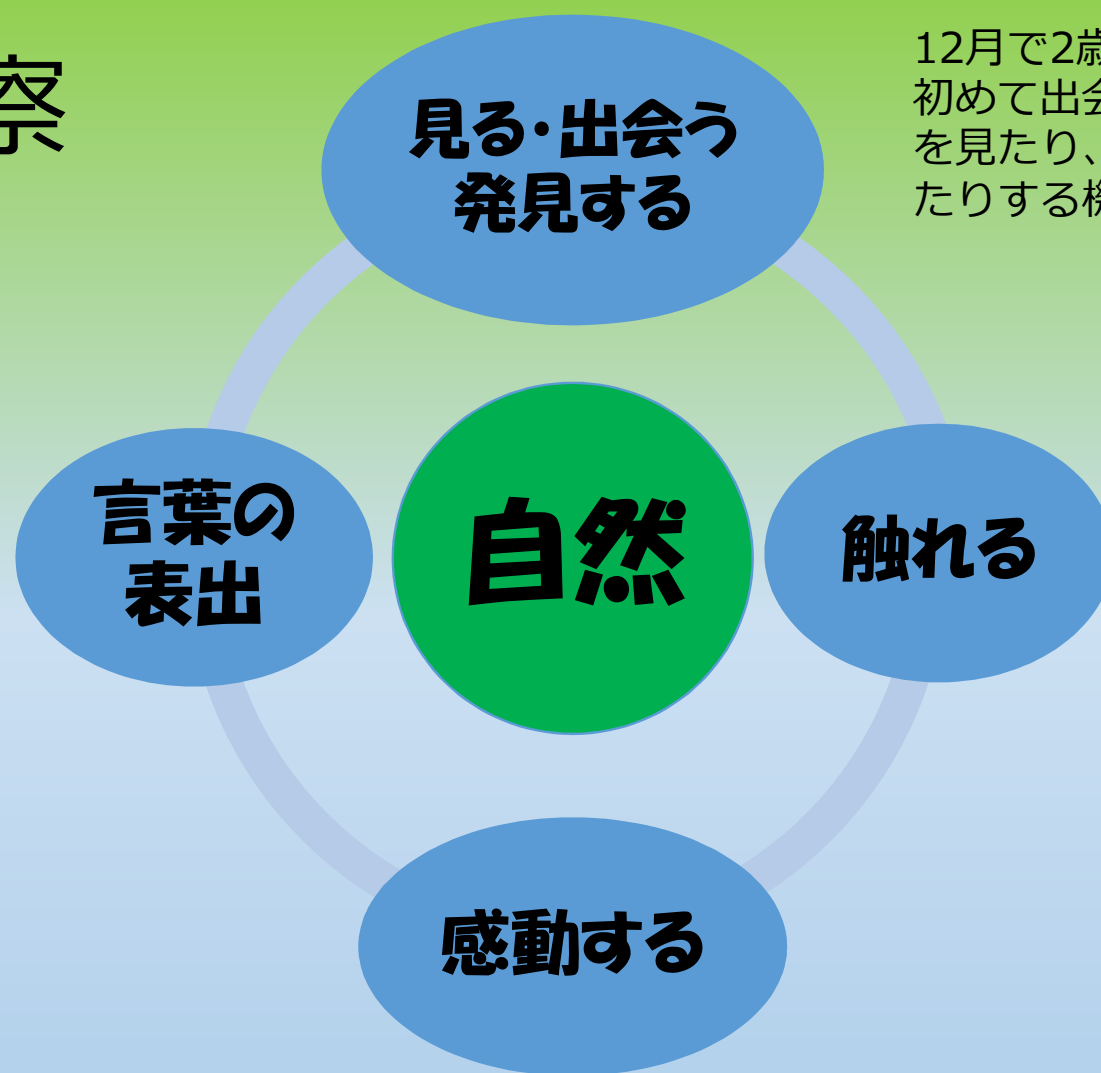


ピョーン！

跳ねる真似をする

▶いつも読んでいる絵本の場面やセリフを思い出し、『カエルがぴょーん』と跳ねる姿を表現した。

◆ 考察



12月で2歳になったM子。春から身近な自然の中で初めて出会う体験を多くしてきた。トンボやカエルを見たり、草花は園で育てた花や木の実などに触れたりする機会を沢山作ってきた。

小さな事にも
気付けるように
保育士が語りかけ
ることが大切

▶ 身近な自然の中で、様々な自然物に興味を持ち、感性が育ち、言葉の表出に繋がっている。

◆研究内容

2.散歩や園外保育から（地域への広がり）

<事例 2-① 6/25>

『あかちゃんガニだよ
かわいい！！』

（5歳児 きりん組）



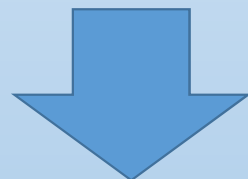
◆研究の内容

豊科東小学校近くの水路にカニやドジョウがいる

6 / 12



「東小に行きたい!」「カニを採りたい!」「ザルを持って行くといいかなあ。」



東小へ出掛けて行く。



6 / 25 !



網も缶バケツも
持ってきたよ！

どじょういっぱいとれる
かなあ。

期待を持って登園してくる子ども達。



5年生の先生やお兄さんお姉さんが待っていてくれ、一人一人手を繋いで、学校の回りの小川に連れて行ってもらう。
はじめのうちは少し恥ずかしそうにしていた子ども達も大喜びで生き物を捕まえている。



どきどきするなあ。

いたよっ！！

このカエルめちゃくちゃ
大きいよ！



あかちゃんガニだよ、
かわいい！！



本当にドジョウにはひげがあるね

◆考察

心を揺さぶ
られる体験

- ・ 捕まえる体験
- ・ 観察・視て・
- ・ 触れて

オタマジャクシの体に
線が入っている。
どじょうがぬるぬるし
ている。ひげがある。

主体性のある
活動へ繋げる

- ・ 自然の中に
身を置く
- ・ 心が開放される

あかちゃんガニだよ、
かわいい。素直に自分
の気持ちを表現する。

保護者との
共有

- ・ 捕まえてきた
生き物を家で
飼育する。
- ・ 成長を楽しむ。

捕まえてきた生き物を
家へ持ち帰る。

◆研究内容

2.散歩や園外保育から（地域への広がり）

<事例 2-② 6/20>

『レモンのにおいがする～～』
(5歳児 きりん組)



保育士のねらい

雨の日の身の回りの自然に触れ、五感を使って感じて欲しい。



子ども達に、雨が降ったら散歩に出掛けようかと誘う。



子ども達から「カッパ」「長靴」が必要
→ 保護者の方に用意をお願いする。

待ちに待った雨降り散歩の日！園庭の散策に出掛ける。



はっけん！！
せんせいきて！きて！



ジャングルジムの下に
しずくのあとを発見！



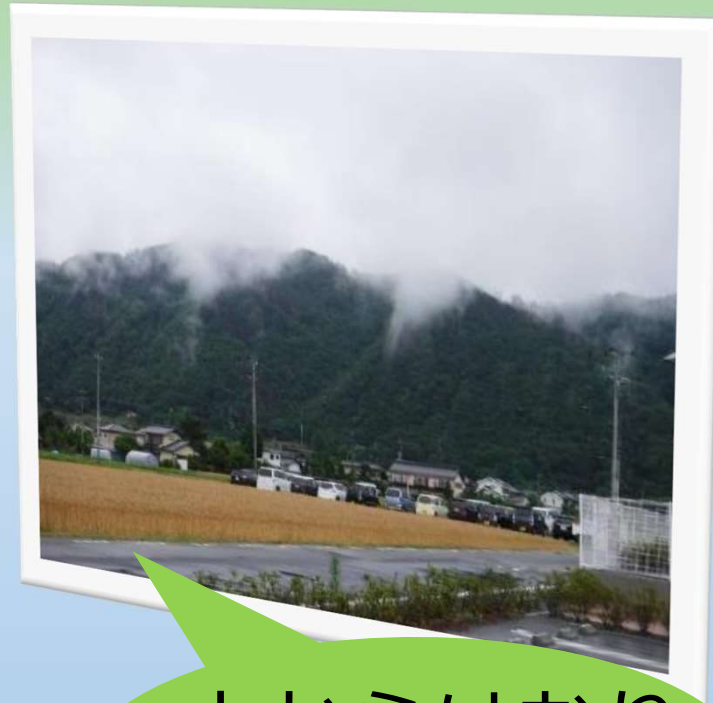
園庭につく足跡やしずくの跡に喜び、みんなで足跡をつけながら歩いたりする。



レモンのにおいが
するっ！

園外の散歩に出掛ける。
小雨になりフードを取る。

つちのにおい～
どうろのにおい！！

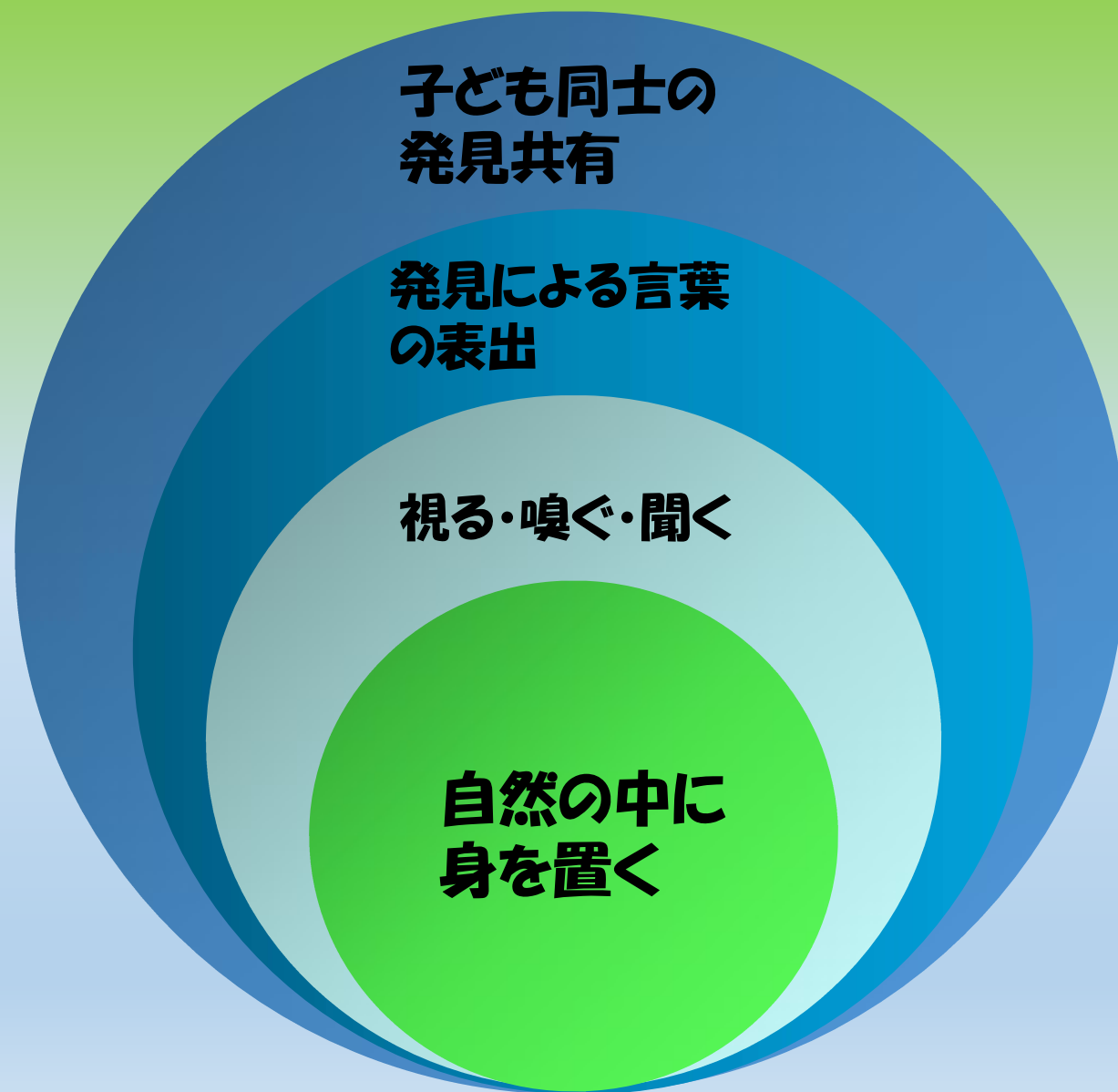


山からけむり
がでてる！

◆考察

➤雨の日の散歩は、普段使いきれていない感覚を研ぎ澄ますことができた。

また、色々な発見を言葉にして表すことにより、子ども同士がその発見を共有することにも繋がった。



◆研究内容

3.飼育・栽培活動から

<事例 3-① 5/31>

『さなたろう、
いつおきるのー？』
(3歳児 こあら組)



保育士のねらい

保育士がキアゲハのさなぎをクラスに持ってきて子ども達と観察を始める。



午睡前の時間に、キアゲハの絵本を読み、さなぎが蝶になった準備をしていることを知った子ども達。



「だから動かないんだね」「寝てるんじゃない？パワー溜めてるんだよ」

翌日から蝶になる姿を楽しみに登園する子ども達。



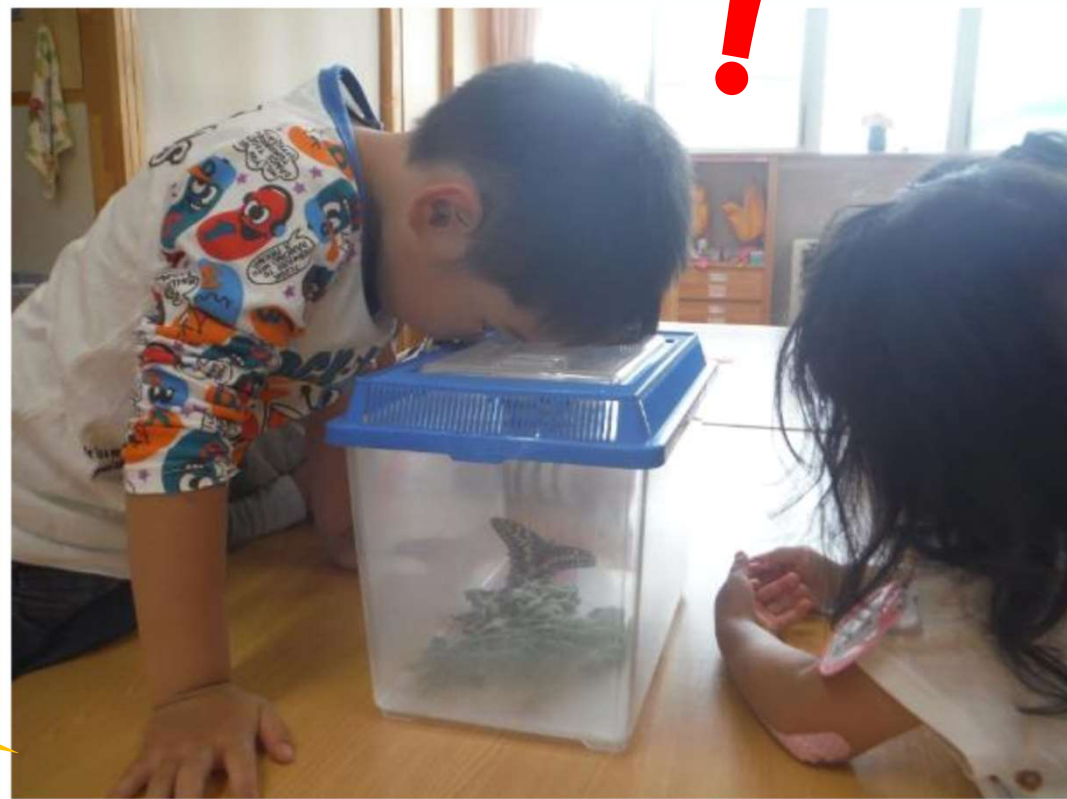
保育士の提案で
さなたろうと命名

ちようちょになって
るっ！！

6/11 さなぎが蝶になっていることを発見する子ども

羽化を楽しみに待つ

さなたろう
いつおきるのお??



たべるものがないとかわいそうだね。

絵本と一緒にだね



にがしてあげようよ。

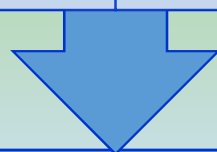
▶図鑑で見比べたりする中で、皆でさなたろうを逃がしてあげることにした。

◆考察

羽化させて自然に返す経験

生き物に興味を持つ

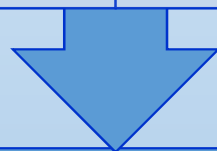
自ら虫に目を向ける子が育つ



子どもの羽化への関心の波及

蝶や図鑑を見る

子ども同士の会話



満足感や優しい気持ちの育ち

名前を呼ぶ・話しかける

愛着を持って観察する

◆研究内容

3.飼育・栽培活動から

<事例 3-② 7/1>

『せんせい、おそらに
にがしてあげよう！』

(3歳児 こあら組)



6/21 育てている大根の葉っぱに沢山の幼虫を見つける。

H男：「ちょうちょになるのかな、かおうよ！」

H男の声で幼虫を飼うことにする。



いもむしはなんのはっぱを
たべるのかなあ～??

ジャガイモやピーマンの葉を入れてみる。



はっぱはたべないねえ。

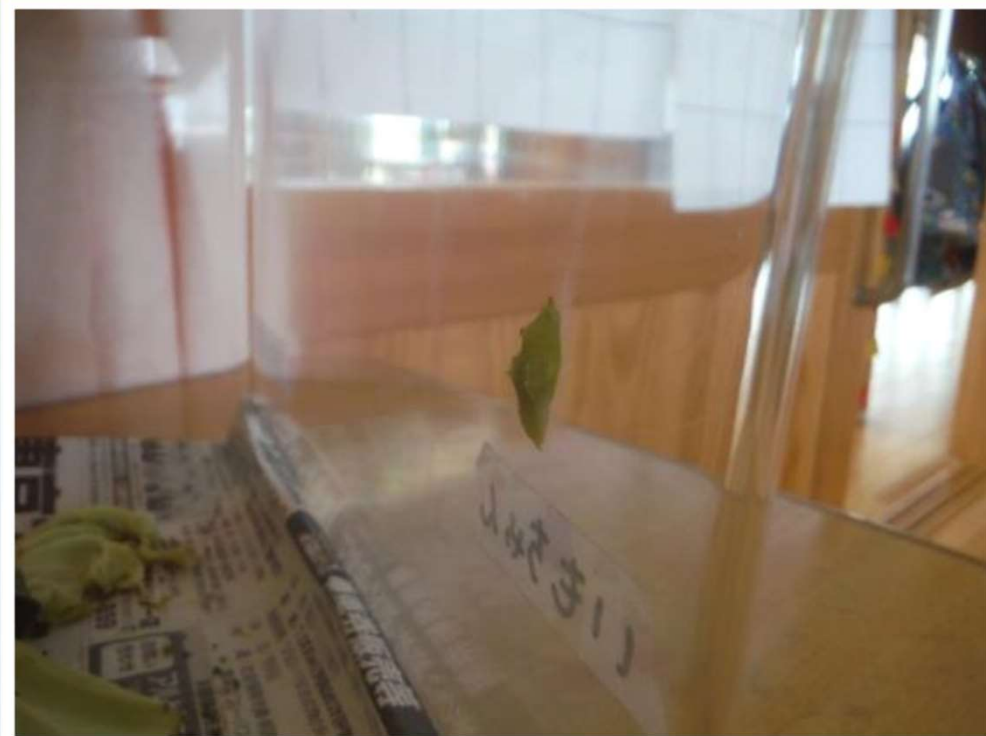


N子：キャベツ食べるんだよ。〇〇。

保育士： さすがNちゃん、よく知っているね。
おうちで飼っているもんね。



『いもちゃん！』と
『さなちゃん』と
子ども達が命名！



▶子ども達が自ら考え・調べる、主体的な姿。経験が繋がっていると感じた。



いもちゃん、
パワーためて
いるんだよ。

あっ！いもちゃん
ちょうちょになってるっ！



蝶になった姿を発見する子ども達



おそらににがしてあげよう。
ごはんないから！

ばいば〜い、またね〜！！



▶ 翌日も子ども達が相談して、さなちゃんを逃がしてあげる。

◆考察

前回のキアゲハの羽化が心に残る経験となり、次に繋がる。

N子の自信に繋がる

- ・ 家庭での飼育経験
- ・ 知識をみんなに広める
- ・ 友だちが喜んでくれたこと



「こうすればいい！やってみよう」年少児の主体的な発言や行動を取る姿

- ・ 保育士の考える以上の活動となった

◆研究内容

3.飼育・栽培活動から

<事例 3-③ 7/25>

『だいこん ちくちく。
にんじん ふわふわ。』
(3歳児 うさぎ組)



クラスで育てている大根と人参に水をあげていると
Y子「はっぱに虫がついている」と青虫を見つける。



保育士が葉っぱが育たないと野菜が育たないと思い、
野菜の育成を優先し、木酸酢をかけてしまう。

大根と人参の収穫



だいこんのはっぱは
ちくちくするね！

にんじんのはっぱは
せいたかのっぽだね。

にんじんのはっぱは
ふわふわだよ。

だいこんのはっぱ
はおおきいね。

わっ！
ほんとうだあ。



収穫した野菜は、子ども達と話し合い、給食に入れてもらう。



この大根と人参、食べたら
どんな味がするかな？

きゅうしょくのせんせい、
おねがいします。



◆考察

保育士が子どもに与える影響力の 大きさを痛感

- ・ 大根の葉の育ちを優先させてしまった
- ・ 大根の生長に興味関心を持つことになる

植物への接し方・大切にしている気持ちが育つ

- ・ 野菜を育てる
- ・ 収穫した野菜の給食の具材を一つずつ見ながら喜んで食する

◆研究内容

4. 家庭との連携から

<連携 1 10/4>

『え～？もってかえって
いいの？』

(3歳児 うさぎ組)





えをかい
てみたよ。

ボクのほうが
おおきいぞ。

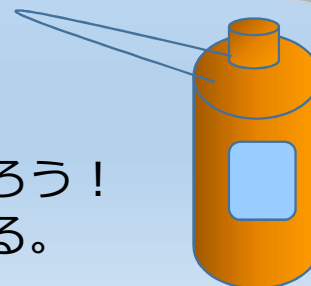


▶ 虫やカエルを捕まえた嬉しさをおうちの方にも知らせたい。
子どもが持ち帰って嬉しさをおうちの方と共有出来るよう1人に1つ虫かごを作る。

散歩に行き、草花を摘んだり、小動物を捕まえて楽しんでいた子ども達。
降園児に迎えに来た保護者の方に
「カエルを3匹捕まえた！でも死んだらかわいそうだから逃がしてあげたよ！！」



- ▶ ・もっと子どもの活動を豊かにしたい。
- ・おうちの方にも子どもの思いを知らせられる虫かごを作ろう！
- ・ペットボトルに自分の好きな絵を書いて虫かご作りをする。





え～、もってかえって
いいの～??

降園時に保育士から保護者の方へ「子ども達が捕まえた虫を見てあげて下さい。見た後は一緒に逃がしてあげて下さい」とお伝えする。
翌日、子ども達は空になった虫かごを持参し、保護者の方と一緒に虫を逃がしたことを教えてくれた。

▶子どもの気持ちに寄り添うため、虫かご作りから保護者と同じ方向で子育てを共有することが出来た。

◆考察

▶保育士や子どもの活動が豊かに展開されるよう、環境を整えていくことが大切である。



保育士

保護者

▶保護者の方と園とが同じ方向で子育てを共有することが出来た。

子どもの気持ち

◆研究内容

3. 家庭との連携から

<連携 2>

『おかあさん、
これつくって！』
(給食室レシピスタンドより)



- ・子ども達に人気のメニューを季節に合ったもの、園で育ててきた野菜を使ったメニューなど給食の先生の協力でこれまで23種類のレシピを配布してきた。

- ・レシピスタンドを用意し、通用門の「給食展示コーナー前と長時間保育室前に展示し、レシピを自由に取れるようにした。



ご家庭からのお手紙



いつもおいしい給食ありがとうございます。

レシピを参考に、カレーを作ってみました。

子どもがいつも「こども園のカレーはおいしい！」と言うので気になっていました。ニンニク！ショウガ！大人はニンニク多めに作りました。こども園の味に近づけたか分かりませんが、子どもがお代わりをしてパクパク食べてくれました。

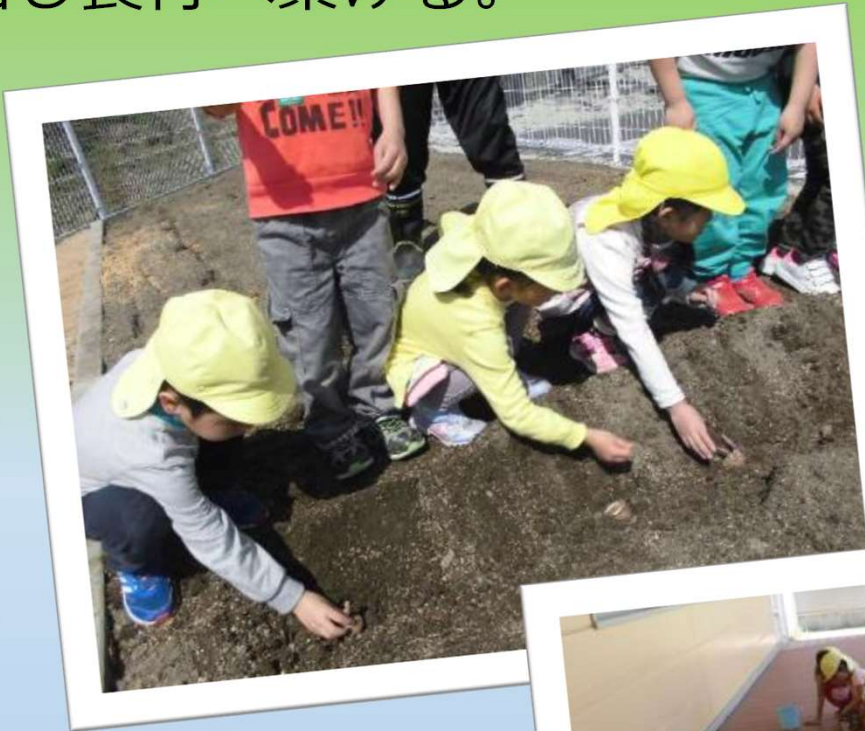
ご家庭からの要望に応えられるように、紙と鉛筆を用紙し、リクエストコーナーも設置する。

「うちの子が給食の大根サラダがおいしいから作ってと言うので教えて下さい」など沢山の声を頂戴しています。



リクエストコーナー

園で野菜を育て、収穫する体験を通して、子どもの食への興味関心を引き出し食育へ繋げる。



おいしそうだね！



もちつき体験

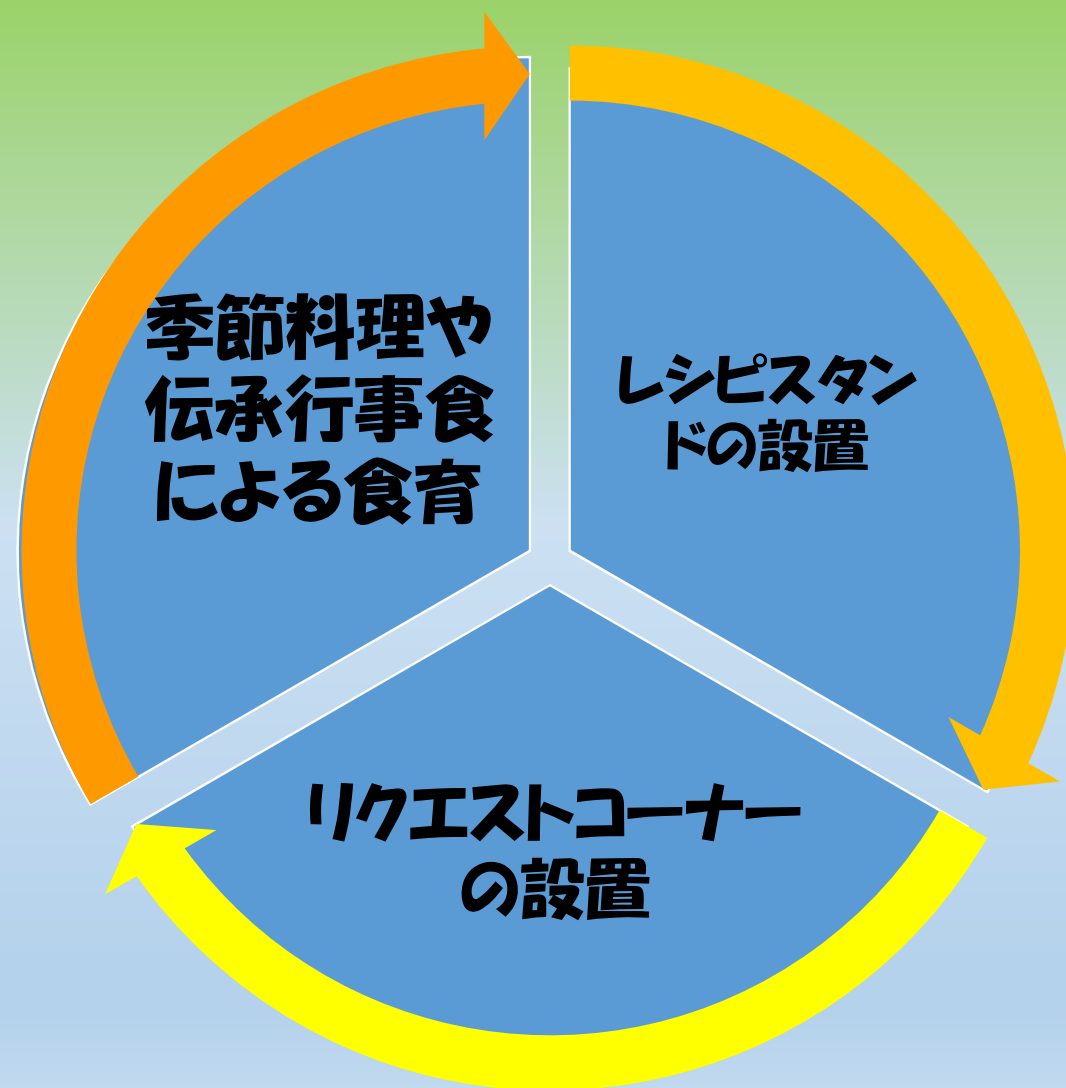


かしわもちづくり

家庭ではなかなか食することや経験することが出来ない季節料理や伝承行事食の提供による、園での食に対する役割の大きさを実感する。

◆考察

1. ▶レシピスタンドを通して、季節や伝承行事食の食事の提供が可能となり、食育による相乗効果を実感している。
2. ▶園と家庭が連携した食育の相乗効果。

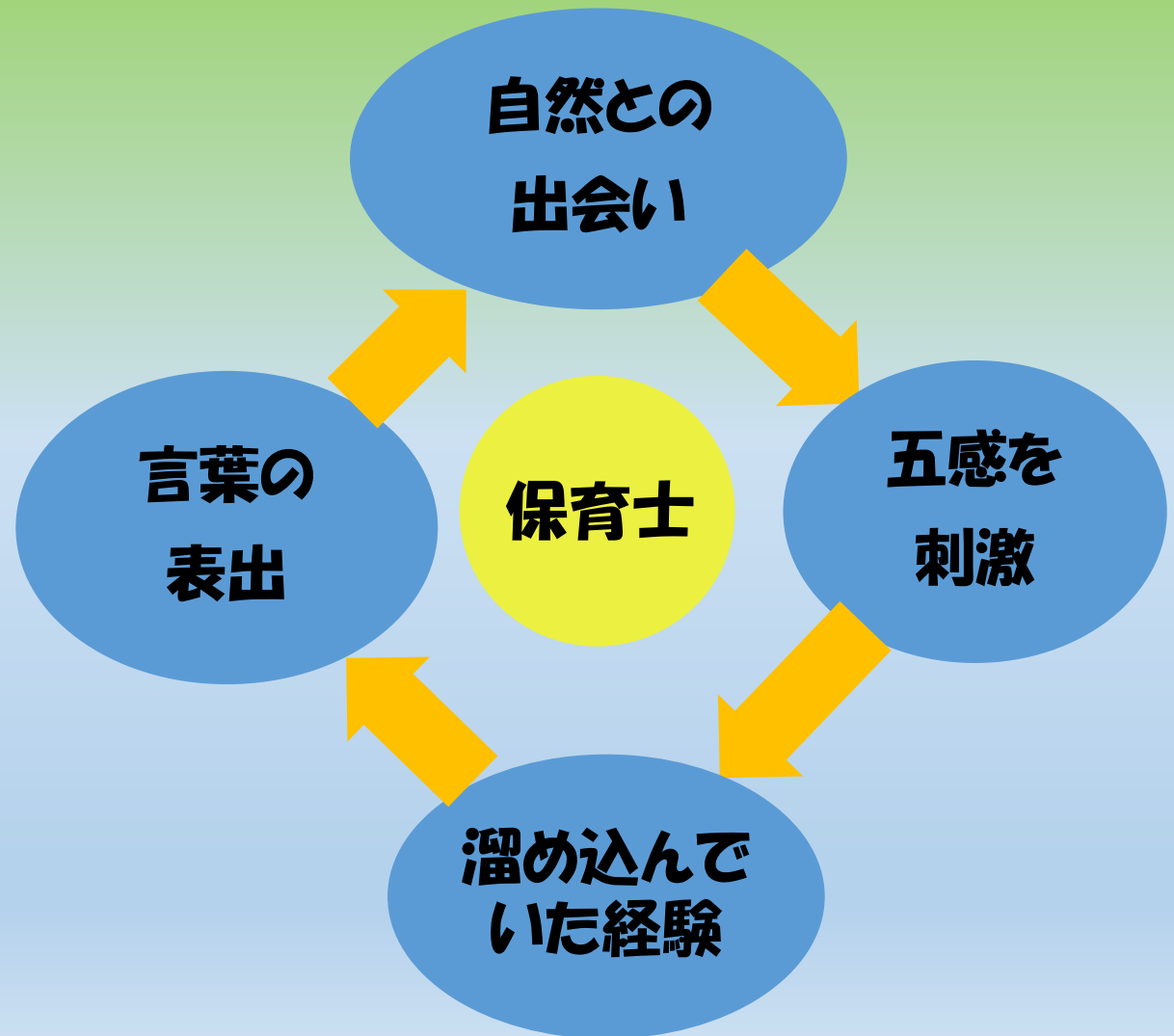


◆研究の成果

1. クラス保育から

▶未満児は自分を取り巻く環境全てが成長発達に繋がる。

▶保育士は日々愛情豊かに応答的に関わる事が重要である。



◆研究の成果

2. 散歩や園外保育から

▶年長児自身を感じたことを友だちと共有することが共に育ち合うことに繋がる。



◆研究の成果

3. 飼育・栽培活動から

主体性を
持った子ども



- ・保育士自身がアンテナを高くもつ
- ・子どもの育てて欲しい姿



保育士の願い



子どもの興味関心を引き出していくことが大切



保育士の価値観により
興味・関心が左右される

心に残るような
直接体験の積み重ね



◆研究の成果

4. 家庭との連携から



園



豊かな活動

意志の疎通を
図る

～したい!
～欲しい!

子ども

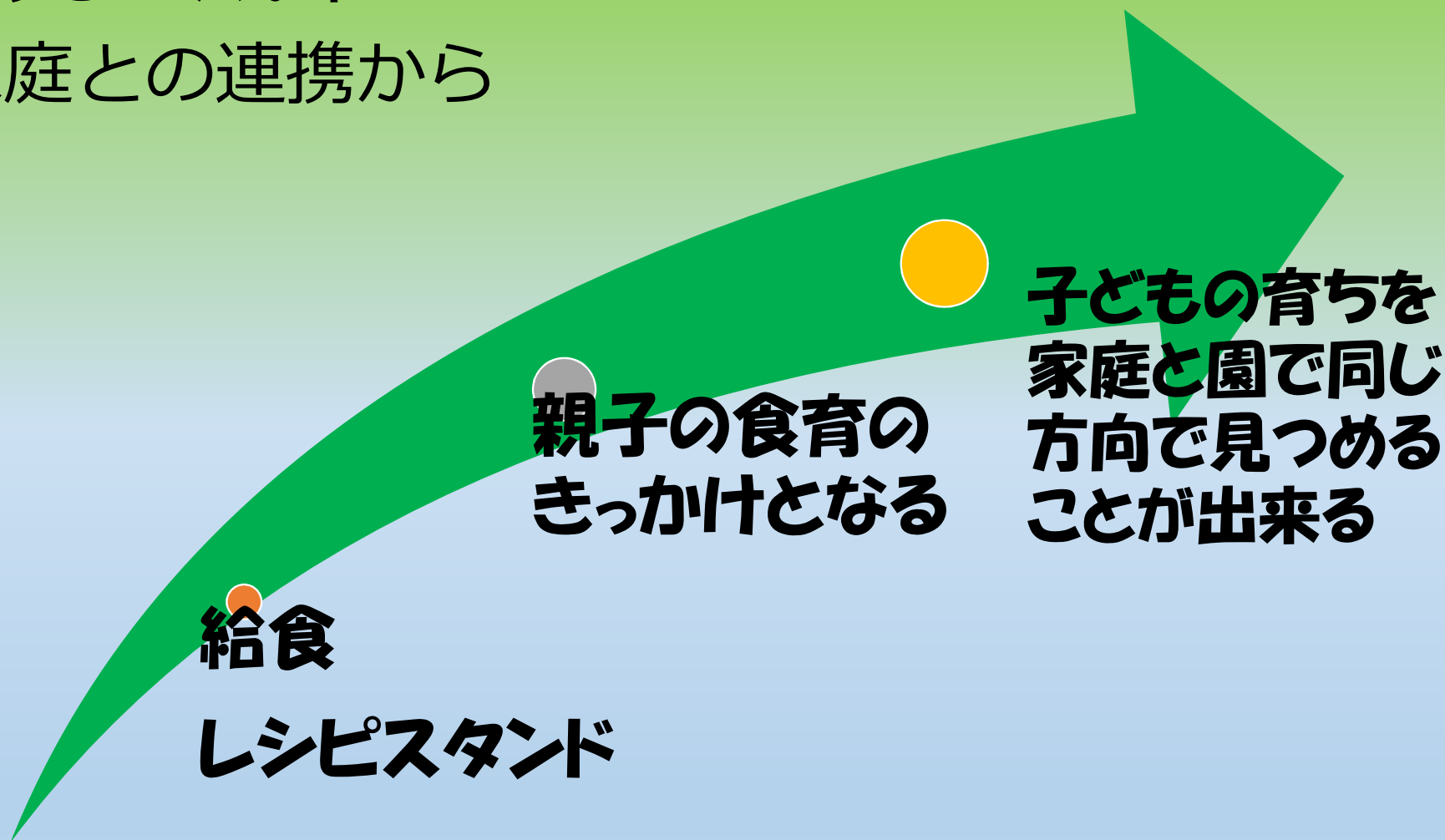
家庭



▶ 園と家庭との連携により、園活動がより豊かに展開される。

◆研究の成果

4. 家庭との連携から



▶ こども園の役割の再確認が出来た。

最後に、今後の課題として下記の3つを挙げさせていただきます。

◆今後の課題

- 1.まずは保育士自身が自己開放し、心を開いていくことが大切である。
日々の変化や子どもの気づきや発見に寄り添える保育士でありたい。
- 2.園内の自然環境が不足していても保育士の感性次第で保育に自然を取り込むことができる。そのためには、職員全体で常に情報交換をし、学んだり確認し合ったりしていく必要がある。
このことが個々の保育士の感性の向上に繋がると思われるので、繰り返し行っていきたい。
- 3.学校や地域、そして保護者と連携した取り組みが子ども達の育ちに欠かせないことから、引き続き園からの発信や啓発をしていきたい。

◆終わりに

以上が今年度取り組んで参りました安曇野市保育協会における研究内容です。

私達は今あるこの環境に感謝し、まだまだ不十分な点が多々あろうかと思いますがここにご提案させていただきます。

これからも自分達の保育を見つめ、子どもたちと感じ合うことを大切に、努力して参りたいと思います。



